

(株) ベネッセコーポレーション 教育情報センター主催
第5回 新課程1期生入学に向けた学びの設計と実践

生徒の学びが変わる 学習評価のこれから



2022年度の新課程 1 期生入学を見据え、年間を通じて情報発信をして参ります！

新課程全体

時期	テーマ
4/27	学習評価の充実に向けてすべきこと
6/25	育てたい資質・能力を意識した指導と評価
本日！	生徒の学びが変わる 学習評価のこれから

探究

時期	テーマ
5/28・6/1 <small>※再放送</small>	「生徒のやりたい！」を引き出す探究的な学びの第一歩
11月	総合的な探究の時間の次年度のカリキュラム&評価

教科「情報」

時期	テーマ
7/1・7/6 <small>※再放送</small>	新課程教科「情報」に向けて今、始められる準備
11月	先進校情報 I 版授業 1 学期指導の振り返り
2月～3月	22年度指導計画共有

時間	コンテンツ
15:00-15:10	本日のセミナーの流れ・課題整理
15:10-16:10	講演 青森県立青森高等学校 笠井 敦司先生
16:10-16:30	他校事例紹介・まとめ
16:30-17:00	質疑応答（任意参加）

注意事項・ご連絡



セミナー中はカメラ・マイクはオンにはできません。
ご質問やご意見等はチャットへの投稿をお願いいたします。講演中にもご質問を投稿ください。

本日の資料をチャットでお送りします。昨日メールでお送りした資料と同じものです。

セミナーに関する簡単なアンケートにご協力ください。

6 チャットの投稿について（PCの場合）



The image shows a screenshot of a PC chat interface. At the bottom center, a small icon labeled 'チャット' (Chat) is highlighted with a red square. A callout box points to this icon with the text 'チャットをクリックしてください' (Please click on Chat). To the right, a larger callout box contains the following instructions: '送信先は、「すべてのパネリストおよび出席者」を選択してください。' (The recipient is, please select 'All panelists and attendees'.) and 'テキストを入力したあと「エンターキー」を押すとチャットを送ることができます。' (After entering text, pressing the 'Enter key' allows you to send the chat.). Below this, a smaller callout shows a dropdown menu for recipients with 'すべてのパネリスト' (All panelists) and 'すべてのパネリストおよび出席者' (All panelists and attendees) as options, with the latter being selected and marked with a checkmark.

送信先は、「すべてのパネリストおよび出席者」を選択してください。

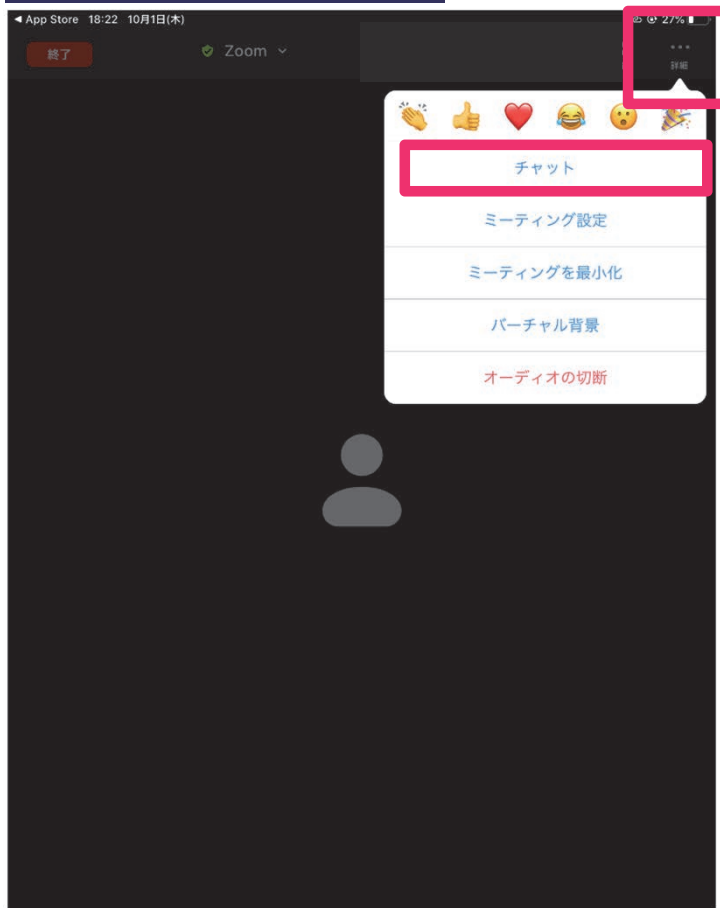
テキストを入力したあと「エンターキー」を押すとチャットを送ることができます。

送信先: すべてのパネリストおよび出席者

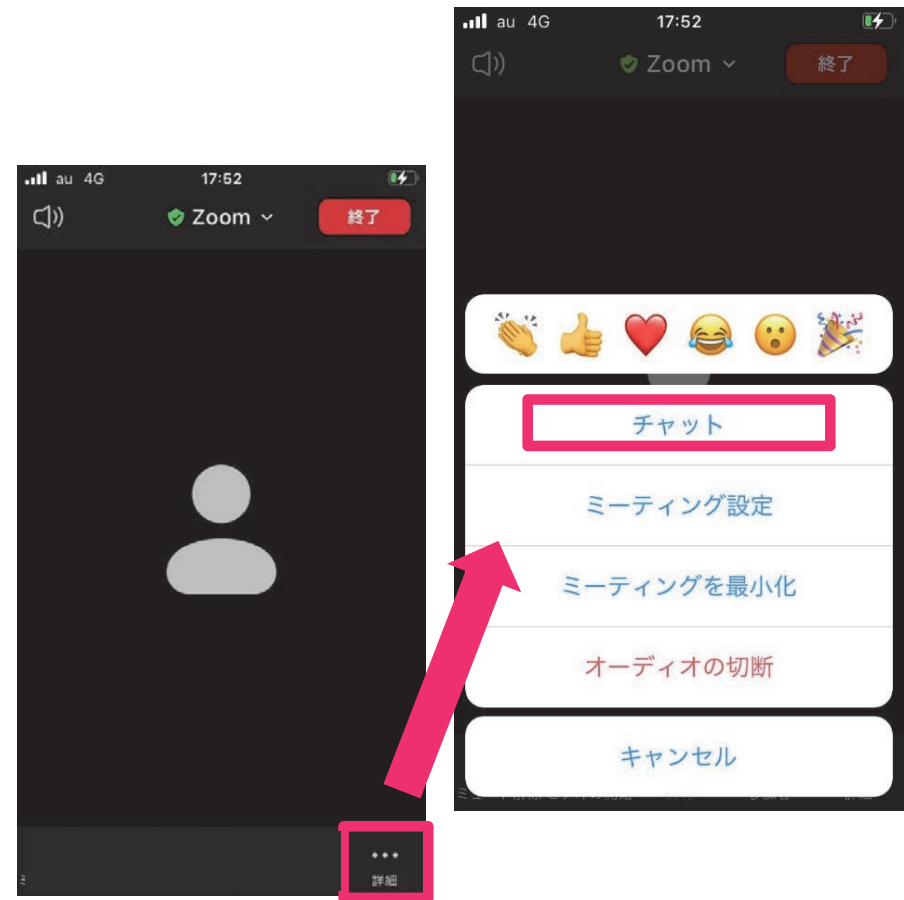
- すべてのパネリスト
- ✓ すべてのパネリストおよび出席者

チャットをクリックしてください

タブレットの場合



スマートフォンの場合



8 資料のダウンロード方法について

PDF 青森県立青森高等学校 笠井敦司先生 ご講演資料 「評価」という空白領域 2021/08/20

ダウンロード

こちらからダウンロードしてください

「評価」という空白領域

—WHYとHOWを「つなぐ」と「わかる、できる」、生徒が「のびる」

青森県立青森高等学校 実践発表 2021.8.24

2 「評価」という空白領域へ—

発表のアウトライン

- 第一部 位置づけ 評価をめぐるWHY,WHAT
- 第二部 重みづけ 逆向きで「指導と評価」を一体化

ページ 1 / 58

9 事後アンケートについて



チャットで流れるURL、もしくは
2次元コードからご回答ください。



【アンケート回答でDLいただけます！】
青森高校 シラバス
（数学I・コミュ英・地理B・保健体育・家庭基礎）

シラバス2019

科目	保健体育(体育)	授業時数	週 2 単位
履修学年・類型	1 学年	男女共同	
目標	・運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能や体力を向上させ、 ・運動の楽しさを体感し継続することができる。 ・公正、協力、責任、夢などに対する意欲を高めるとともに、健康・安全を確保して、 生涯にわたってスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
評価目標1 選べる 見える わかる できる わかる できる わかる	運動の合理的な実践を通して練習方法を工夫したり、試合における役割を認識したりするなど、各領域の運動の特性に応じた高レベルの技能を身に付けることができる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題の合理的・計画的な解決に向けて思考力、判断力の内容を能動的に活用することができる。	運動の楽しさを感じ、仲間と協力して練習をしたりゲームをして勝敗を競い合うことができる。
評価目標2 選べる 見える わかる できる わかる できる わかる	運動の合理的な実践を通してチームを認識し、チームを構成し、安全に配慮し、運動技術(技)の名称や実施の方法及び効果的な学習の仕方を理解することができる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見することができる。	運動の楽しさを感じ、仲間と協力して練習をしたりゲームをして勝敗を競い合うことができる。
評価目標3 選べる 見える わかる できる わかる できる わかる	運動の合理的な実践を通して練習方法を工夫したり、試合における役割を認識したりするなど、各領域の運動の特性に応じた高レベルの技能を身に付けることができる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題の合理的・計画的な解決に向けて思考力、判断力の内容を能動的に活用することができる。	運動の楽しさを感じ、仲間と協力して練習をしたりゲームをして勝敗を競い合うことができる。
評価目標4 選べる 見える わかる できる わかる できる わかる	運動の合理的な実践を通して練習方法を工夫したり、試合における役割を認識したりするなど、各領域の運動の特性に応じた高レベルの技能を身に付けることができる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題の合理的・計画的な解決に向けて思考力、判断力の内容を能動的に活用することができる。	運動の楽しさを感じ、仲間と協力して練習をしたりゲームをして勝敗を競い合うことができる。
評価方法	運動技術の観察、スキルテスト	授業時の観察、スキルテスト	関心・意欲

■いつ、何を学ぶか【学習内容】

学年	学習内容
1 学期	必1 身体つき運動 (※ほだし、能力を高める運動) 必2 目標運動(マラソン・短距離) 必3 目標運動(短中距離走、立止短距離)
2 学期	必4 球技 (ボール型、ベースボール型、ネット型) 必5 武道
3 学期	必6 球技 (ボール型、ベースボール型、ネット型) 必7 武道

■何を学ぶか【教材】

【大塚新書部】
アクティブスポーツ (総合)

■どのように学ぶか【授業】

年度当初は男女共同で集団(1～4列の縦形移動及び行進等)で基礎体力を高める運動を行い、後半からは男女別に分かれて行う。運動が苦手・得意な関係に関わりなく、その中で、「必1」といった意欲を養い、生涯にわたってスポーツライフを継続できるように後得できるよう積極的に取り組む。

科目	家庭基礎	授業時数	週 2 単位
履修学年・類型	1 学年	男女共同	
目標	人の一生と家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的態度を身につけさせる。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
評価目標1 選べる 見える わかる できる わかる できる わかる	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活の充実向上に必要な、基礎・基本的な知識や技術を身につけている。	家庭や地域の生活について見識し、課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組んでいる。
評価目標2 選べる 見える わかる できる わかる できる わかる	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活の充実向上に必要な、基礎・基本的な知識や技術を身につけている。	家庭や地域の生活について見識し、課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組んでいる。
評価目標3 選べる 見える わかる できる わかる できる わかる	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活の充実向上に必要な、基礎・基本的な知識や技術を身につけている。	家庭や地域の生活について見識し、課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組んでいる。
評価目標4 選べる 見える わかる できる わかる できる わかる	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活の充実向上に必要な、基礎・基本的な知識や技術を身につけている。	家庭や地域の生活について見識し、課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組んでいる。
評価方法	授業中の活動内容 ・プリント ・調理実習の振り返り	授業中の活動内容 ・プリント、レポート ・ホームプロジェクト	定期考査、プリント ・レポート ・実習の内容

■いつ、何を学ぶか【学習内容】

学年	学習内容
1 学期	1 第1章 「自立」するとは 2 第2章 多様化した社会を生きる 3 第3章 消費生活を生きる 4 第4章 遊んで楽しむ
2 学期	1 第1章 楽しく安全に食べる 2 第2章 子どもと生きる 3 第3章 人間らしく住む 4 第4章 文芸・文化・共に生きる

■何を学ぶか【教材】

1. 教科書「新家庭基礎2」実教出版
2. 資料集「スーパーコンピュータ」東京書籍
3. 自主教材(プリント等)

■どのように学ぶか【授業の方法/学び方】

家庭科は、「や」を生きる私たち一人ひとりから、自分自身の生活や人をより充実したものにするため、そしてよりよい社会のために、即ち役に立てない、あるいは暮らす必要がある課題を具体的に学びます。当事者意識・人間性について、家族や友人とのコミュニケーション、結婚・育児の、お金の使い方・書式、身につけている衣服、食生活内容やファッション、住まいの環境など、生活に関する学習をします。これらをもとに、将来のライフデザインを考えていきます。



入力 確認 完了

【テスト】

第5回新課程1期生の入学に向けた学びの実践と設計
事後アンケート

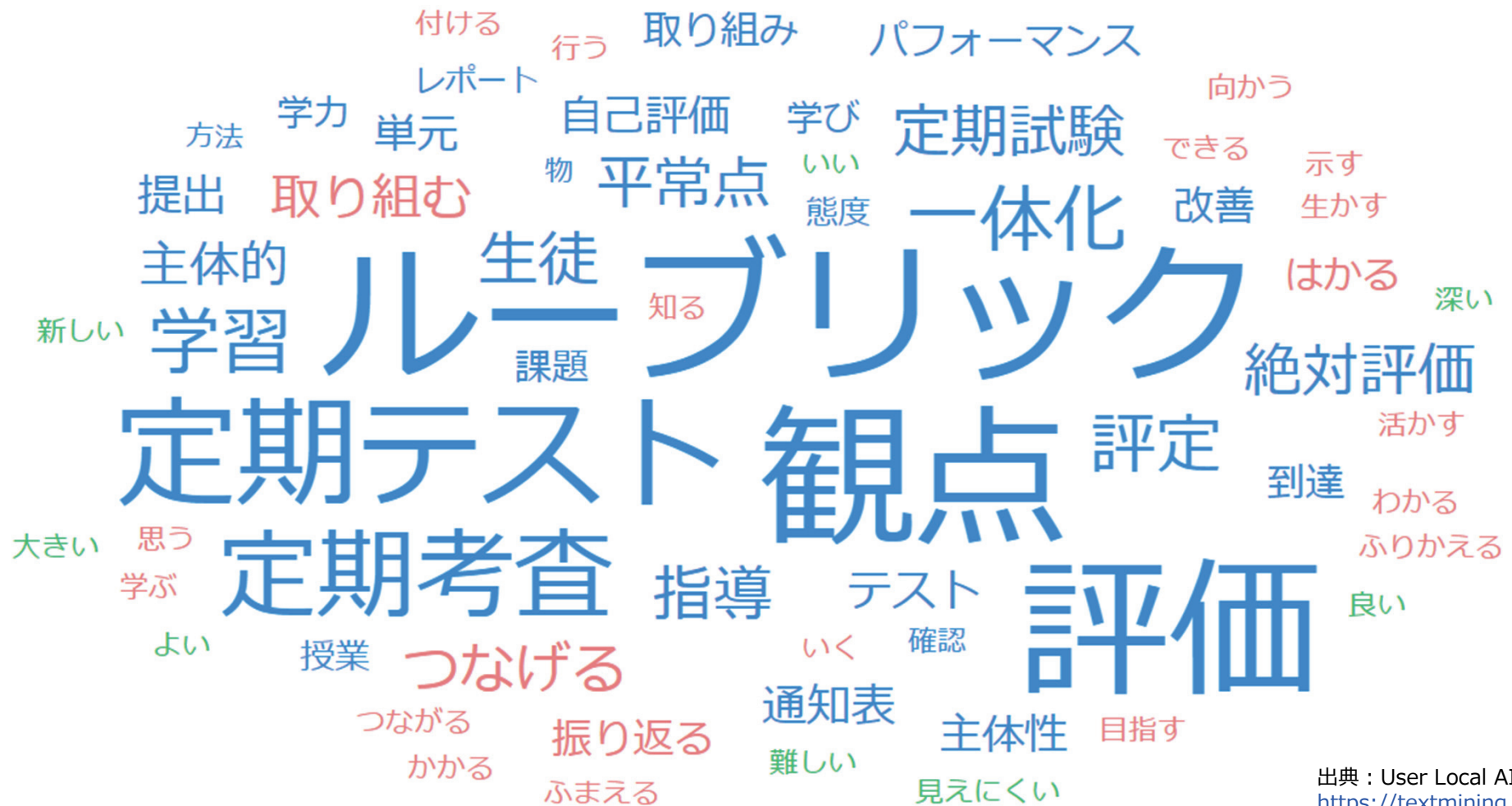


アンケート回答後
表示されたURLより
シラバスをDLしてください。

先生方の課題・

セミナーの目的の整理





出典：User Local AIテキストマイニング
<https://textmining.userlocal.jp/>

12 事前アンケートから見えた先生方からお伺いするお悩み

観点と評点を結びつけ、どのように評価方法を考えるか

いろいろな事が検討中で完成していませんが、
何より**観点別評価**を**どのように**していくかが一番困っています。

どのような**評価基準**を作成したらよいか。**観点別評価**を**どのように**行えばよいか

評価と評定の関係をどのように形づくっていくかについて、いまだにこれだと思えるようなものが見つからない。

観点別評価の仕方 **評定のつけ方**

新課程実施に向けて、教科・科目ごとの**観点別評価の作成**

3つの観点を
どのように評価すればよいか



観点別の評価と評定を
どのようにひもづければよいか

2つの具体的なポイントがわかり、2学期以降の検討の見通しが立つことを目指します

ポイント 1

3つの観点について

今の取り組みを生かしながら

どのように評価すればよいのか



校内テストや振り返りシート等を活用した
具体的な事例と取り組みのポイントをお伝えします！

ポイント2

観点別評価と評定のひもづけについて

運用しやすい形で

どのように設計すればよいのか



教育委員会から方針が示されている場合もあるため
参考にさせていただけるパターンを複数ご紹介します！

【これまで】

※あくまでも一例です

【これから】

目的

できないことを明らかにし、値踏みする

生徒を前向きにし、学習改善に生かす + 先生方の授業改善に生かす
⇒年間を通じて多様な評価をしていくことが重要

タイミング

学期の終わりに1回

【診断的評価】
学習前・導入【形成的評価】
学習中【総括的評価】
何が身についたか

主体



手法



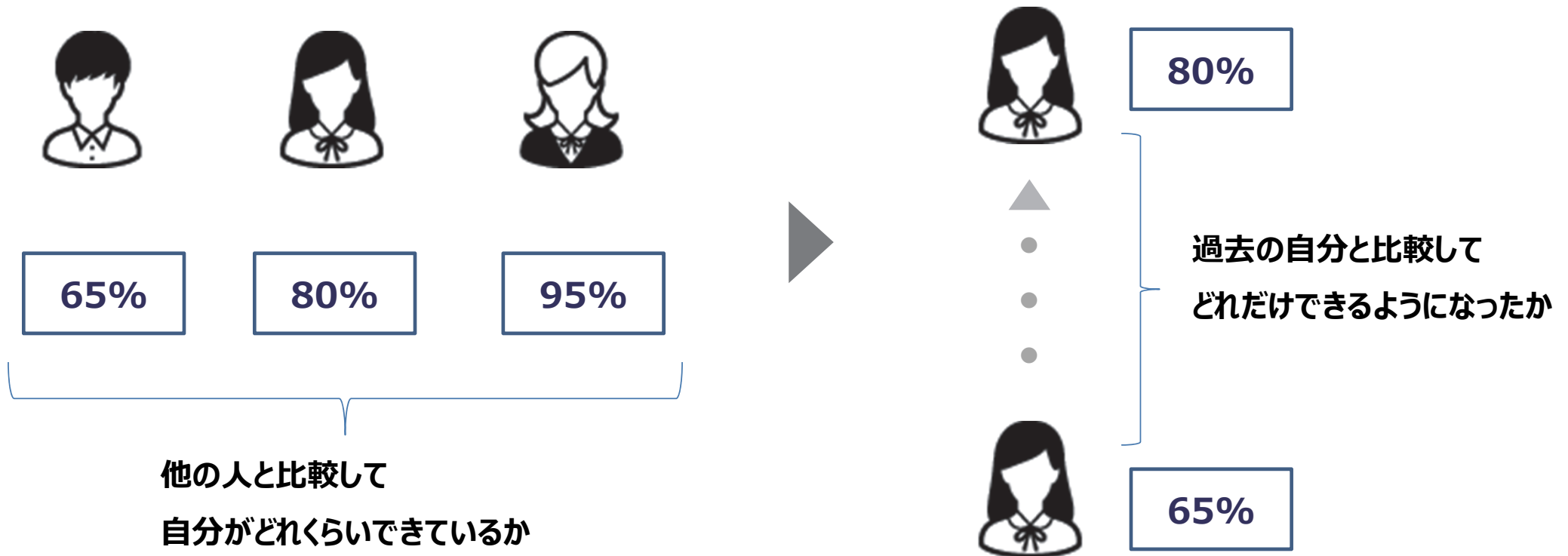
対象

単元の理解度

身についた資質・能力

(知識・技能／思考力・判断力・表現力／学びに向かう力)

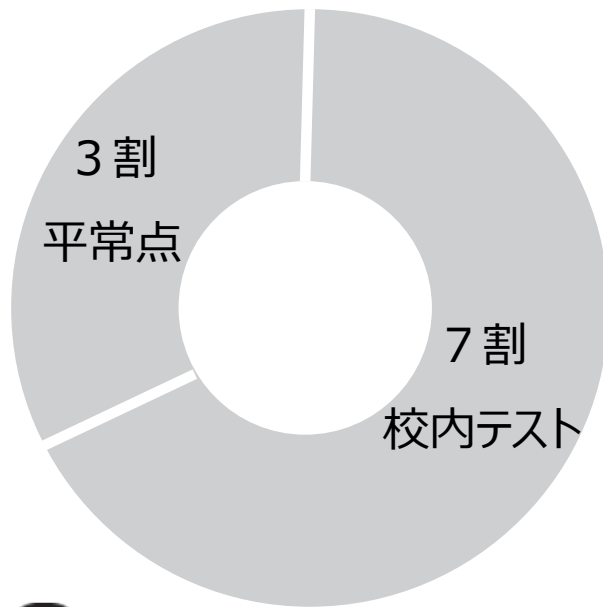
左右の比較 から 前後の比較 へ



カテゴリ	よくいただく質問	考え方
評価手法	<p>数学は協同学習等が発生しづらいので、従来のテストでの評価が主になるのか？</p>	<p>テストか否か、ではなく、観点別に評価できているか？が大切なので、「知識技能」と「思考力・判断力・表現力」はテストで評価し、「学びに向かう態度」は振り返りシートで評価することも可能です。</p> <p>そもそも、授業形態も資質・能力を育成するための手段でしかないので、ALの教科の成果をペーパーテストで問うたり、座学中心の授業をパフォーマンステストで評価することも考えられます。「育成・評価をしたい資質・能力 = コンテンツの理解度ではなくコンピテンシーの習得度」ベースで授業・評価の手段を考える必要があります。</p>
自己評価	<p>生徒の自己評価も評価・評定に反映させるのか？</p>	<p>反映も可能です。実践されている先生は、評価基準をルーブリックなどを活用して設定されています。評価とは「先生が生徒を評価するもの」という概念に縛られず、必要に応じて、生徒の自己評価なども取り入れている学校が多いです。</p>

カテゴリ	よくいただく質問	考え方
タイミング	<p>評価は毎授業行うのがベストなのか？</p> <p>3観点を1人ずつ評価しようと思うと膨大な時間がかかってしまう…</p>	<p>毎時間やる必要はなく、单元ごとなどの「まとめり」での評価で問題ありません。</p> <p>また、先述のとおり、すべてを先生が評価する必要はない、ということも先生方のご負担を軽減するためにも大切な視点かと思います。</p>
評定	<p>現在の評価は学校全体で65点+-5以内で収める必要があるが（5段階評価でだと3.5）、その基準は無くなっているのか？</p>	<p>校内の内規次第かと思いますが、他人と比べる評価ではないので、一律のルールとしてはそのような基準はございません。</p> <p>「5」の生徒がたくさん出ても、学校としてOKであればOKですので、各学校で方針を検討する必要があります。</p>

「全体」の力をテストと平常点で
(ある意味) 相対的に評価



85点 ⇒ 評定5

3つの資質・能力について
到達度に応じて多様な手法で評価

知識・技能	思考力・ 判断力・ 表現力	主体的に 学習に 取り組む態度
校内テスト	校内テスト レポート	振り返りシート ループブック
A	A	A



AAA ⇒ 評定5

知識・技能

知識・技能の習得と、それらを既有的知識・技能と関連づけ、活用するなかで、他の学習や生活場面でも活用できるくらい概念を理解、技能を習得しているか

思考力・判断力・表現力

知識・技能を活用し、課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身につけているか

主体的に学習に取り組む態度

知識・技能、思考力・判断力・表現力を身につけるために、自らの学習状況を把握し、学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面

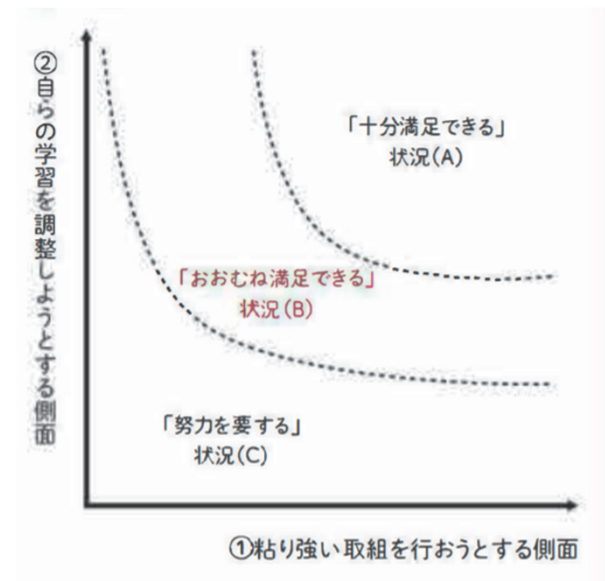
主体的に学習に取り組む態度とは

知識・技能、思考力・判断力・表現力を身につけるために

① 自らの学習を調整しようとする側面（自己調整）

② 粘り強い取組を行おうとする側面（粘り強さ）

出席率、提出物を出しているかどうかだけでなく、単元や題材といったまとまりごとに生徒自身が理解の状況や、学び方を振り返る機会をつくり、評価する必要がある



講師発表





青森県立青森高等学校 教務主任 笠井敦司先生

教職歴25年。担当教科は国語。2017年度より進路指導主事を3年間務め、2020年度より教務主任。校務分掌とは別に2016年からランドデザイン・プロジェクトチームリーダーも務める。めざす生徒像・育てたい10の資質・能力「青高力」の策定、それに基づくルーブリック・シラバスの作成・運用の推進役を担う。また、Classi運営責任者として、授業改善・学びにおけるICT活用の観点から学校全体での利用推進にあたっている。

講演タイトル

「評価」という空白領域

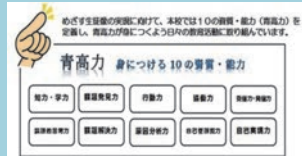
ご講演まとめ・

他校事例紹介



ポイント 1

学校として育てたい資質・能力
「青高力」を設定



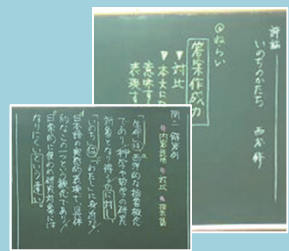
ポイント 2

教科で育てたい資質・能力を明確化し
授業・評価計画をシラバスに表現



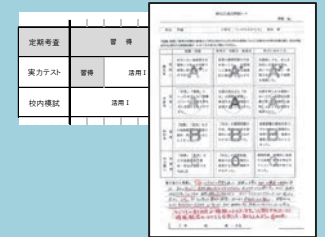
ポイント 3

育てたい資質・能力を
意識した授業実践



ポイント 4

観点別の評価の実践



ABC ポイント 5

観点別の総括的評価
(観点別にABCをつける)

	知識・技能	思・判・表	主体性
実力テスト①	A	B	—
1 中間	A	B	—
1 期末	A	A	—
実力テスト②	A	C	—
2 中間	B	A	—
2 期末	B	A	—
実力テスト③	B	C	—
学年末	A	A	—
者/実総合	A	A	—

ポイント 6


観点別評価を評定に換算

評点換算	評定	思考・判断・表現 / 知識・技能 / 主体性
100	5	AAA
95	5	AAB ABA
90	5	ABB BAA
85	4	BAB BBA AAC
80	4	BBB CAA ABC
75	4	CAB BCA CBA
70	4	CBB BBC BCB
65	3	CAC
60	3	CBC BCC CCB
55	-	-
50	2	CCC

何を評価するか = どのような力を各教科・科目で育成するか（この教科でいう思考力とは何か）の明確化が第一歩

ポイント1
 評価方法からいきなり考え始めると・・・
 学校として育てたい資質・能力
 「青高力」を設定
「思考力問題ってつまりどういう問題？」
「多様な手法が必要だからルーブリックをとりあえず作ろう！」
「教科横断の授業ってどう評価するんだっけ？」
 教科で育てたい資質・能力を明確化し
 授業・評価計画をシラバスに表現
 のようになり、検討に時間がかかるだけでなく

先生間の認識に差が出て、テストや授業が変わり
学校として持続可能な取り組みにならない
 意識した授業実践



ポイント4
 観点別の評価の実践

定期試験	評価
実力テスト	評価1
校内評価	評価1

ポイント5
 観点別の総括的評価
 （観点別にABCをつける）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体性
実力テスト①	A	B	—
1 中間	A	B	—
1 期末	A	A	—
実力テスト②	A	C	—
2 中間	B	A	—
2 期末	B	A	—
実力テスト③	B	C	—
学年末	A	A	—
考/実総合	A	A	—

ポイント6
 観点別評価を評定に換算

評点換算	評定	思考・判断・表現/知識・技能/主体性
100	5	AAA
95	5	AAB ABA
90	5	ABB BAA
85	4	BAB BBA AAC
80	4	BBB CAM ABC
75	4	CAB BCA CBA
70	4	CBB BBC BCB
65	3	CAC
60	3	CBC BCC CCB
55	-	-
50	2	CCC

どのような力を各教科・科目で育成するかを明確にするために

完璧なシラバスをつくることが目的ではない。各学校で必要な内容を、進めやすい方法で検討することが重要。

- ★各観点で資質・能力を段階的に表現したり、各教科で1文で表現など方法は様々。教科内で目線合わせ、明文化できていることが重要。
- ★FMTをまず教務で決め、各教科に内容の検討を任せる学校が多い。途中で教科を越えて情報交換をすることでブラッシュアップにつながる。
- ★一気に3学年分作成する学校もあるが、まずは1学年だけ・・・と年次進行で検討している学校もある。

青森高校シラバス

科目	(例)国語総合[現代文]	授業時数	週 2 単位 履修学年・類型 1 学年
目標	国語を適切に理解し表現するための知識・技能を高め、それに基づいて、論理的思考力・判断力を身に付けるとともに、適切に表現する力を伸ばし、主体的に国語に関心態度を身に付ける。		
■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか[めざす能力とその次元]			
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
評価の観点	基礎的な読解技法や読解力を活用して読解し、内容を分析してわかりやすく説明し、あるいは自らテーマを設定し、考えを論理的に表現することができる。	複雑な論理関係や論理構造を分析してわかりやすく説明し、あるいは自らテーマを設定し、考えを論理的に表現することができる。	広く社会に目を向け、現象から原因を導き出し、因果関係を導き出したりする主体性や探究心を身に付けている。
評価の観点	論理関係の形式や、文学の論議・表現技法を正しく理解し、それを用いて読み、書くことができる。	論理関係や構図・表現の技法を正確に読み、文章の主題的・論理的にとらえ、表現することができる。	自分の考えを他者と伝え合うこと、論議的かつ効果的に表現しようとする態度を身に付けている。
評価の観点	基本的な文法および語彙の意味や文学史などの背景知識を正確に理解し、読み、書くことができる。	基礎的な読解力・文法力に基づいて筋立てて考え、それを表現することができる。	積極的に読解力を伸ばし、目し、聞き、読み、書く言語生活を豊かにしようとする態度を身に付けている。
資力	[知力・学力]	[思考力・学力][論理的思考力][原因分析力][関係発力]	[協働力][行動力]
評価方法	授業時の観察・定期考査・課題評価テスト(小テスト)	授業時の観察・実力テスト・定期考査・課題レポートなど	授業に臨む姿勢や意欲・パフォーマンス評価(論文・レポート)などの自主的な取組
■いつ、何を学ぶか[学習内容]		■何で学ぶか[教材]	
1 学期	学 習 内 容 [入 門]言葉との付き合い方 思い方 [評論分類]評論文の読み方 [評論分類]対比構造(文化論) [小説]小説の読み方 [小説]構図の読みとり方	教科書「改訂版 国語総合 現代文編」教研出版 「現代文キーワード読解」余出版 「開出漢学スチール3000」南文出版 自主教材(プリント等)	
2 学期	[評論]因果関係(近代科学論) [小説]心構の読みとり方 [評論]類比構造(言語論) [小説]主題の読みとり方 [図表]表やグラフの読み取り方 [論議]感情的な表現の読みとり方	■どのように学ぶか[授業の方法/学び方] 学んだ知識・読解技能を使って文章などを読み、時に自ら考え、あるいは他者と考えを伝え、身につけて思考を深め、それを言葉で表現するという学び方です。特に授業担当の説明を聞いて、反響をノートに等す、という、受身な授業ではありせん。	
3 学期	[評論]総合的な読み取り [小説]背景や心構を踏まえ主題を読みとる [表現]自分の考えを論理的に書く		

呉三津田高校 各教科等のグランドデザイン (各教科等の思考力の定義)

全体	習得した知識や理解した内容を相対化した上で活用し、根拠を明確にして自分の考えを説明する力
国語	テキストを他者としてとらえ、それに対する自分の考えや意見を、根拠を明確にして表現する力
地歴公民	社会的事象の持つ意味や事象間の関係性などについて、相対化した知識や概念、資料を根拠に多角的・論理的に説明する力
数学	基礎的・基本的な知識・技能を活用しながら直面した未知・未習の事象や問題に対して実験や観察から得られる情報の中から本質部分・ポイントとなる部分を見抜き、新しい情報をつなぎ合わせながら問題解決をしていく、あるいは新たな事実を発見・立証していく力
理科	自走できる学びを目指し、既知の科学的原理・法則を十分に活用するとともに、仲間と協働して未知の科学現象に果敢に挑む力
保健体育	・種目の特性を理解し、自分の体力や技能を高めるための課題や集団(チーム)での自分の役割を見だし、能動的な取り組みができること ・表やデータから問題点や課題を見つけ、それらを解決する道筋を明らかにすること。
芸術	与えられた課題を達成するために、基本的な力を活用しながら目標に近づけていこうとする力
英語	読んだり聞いたりしたことを正確に理解し相対化したうえで、明確な根拠とともに自分の主張を書いたり話したりする力
家庭科	日常生活で得た生活体験を、科学的な見方や考え方を通して認識しなおし、自分の家庭生活を工夫していこうとする力
情報	多くの情報の中から問題解決を行うことにつながるプロセスを明らかにできる力

2つの具体的なポイントがわかり、2学期以降の検討の見通しが立つことを目指します

ポイント 1

3つの観点について

今の取り組みを生かしながら

どのように評価すればよいのか



校内テストや振り返りシート等を活用した
具体的な事例と取り組みのポイントをお伝えします！

ポイント 2

観点別評価と評定の紐づけについて

運用しやすい形で

どのように設計すればよいのか



教育委員会から方針が示されている場合もあるため
参考にさせていただけるパターンを複数ご紹介します！

ポイント 1


3つの観点について
今の取り組みを生かしながら
 どのように評価すればよいのか



ポイント 4

観点別の評価の実践

定期考査	夏	90%
実力テスト	春	80%
校内模試	定期1	40%



知識・技能

思考力・判断力・表現力

校内テストの問題を知識・技能を問う問題と
 思考力・判断力・表現力を問う問題に
タグづけをして採点をする

主体的に学習に取り組む態度

出席や提出物に加えて
 まとめレポートや振り返りシートの
生徒の「自己評価」を活用する

手法	学校名	ポイント
校内テスト	青森県立青森高等学校	# 観点別の作問・採点 # 問題のタグづけ
単元ごと自己評価シート	青森県立青森高等学校	# 生徒の自己評価 # シラバスとの連動
ワークシート	大阪府立鳳高等学校	# ルーブリックの作成 # 評価基準の見直し

▶本校シラバスより

定期考査	習得		活用 I	活用 II	想定得点率
					60%
実力テスト	習得		活用 I	活用 II	50%
校内模試			活用 I	活用 II	40%

「思考・判断・表現」に重点を置いた設問を定期考査で40%（活用 I 30：10活用 II）
※初見の素材も出題できる。

「知識・技能」に重点を置いた設問を定期考査で60%

史料2.

〔表〕 辛亥年七月中記す。宇宿臣、上祖の名は意富比地、其の多加利足尾、其の児名は意已加利尾、其の児名は多加按次尾、其の児名は多沙尾尾、其の児名は半彦比。

〔表〕 其の児名は加登按余、其の児名は宇宿臣、世々孫力入の首と為り、奉事し来り今に至る。推加多式由大王の時、斯尾宮に在る時、吾、天下を左治し、此の百練の利刀を作らしめ、吾が奉事せる根原を記す也。

（稲荷山古墳出土鉄剣銘）。

「天下治めす親皇大王の世、奉養管入、名は先皇。八月中、大いなる皇命と、我々に四尺の鉄刀を用い、八十年び練り、六十年び練りたる三寸上野の利刀なり。此の刀を贈する者は長寿、子孫ま々三思を得る也。其の統ぶる所を委ねらむ。作刀者の名は伊太、書者は張安也。」

（江田船山古墳出土鉄刀銘）。

史料3.


中国(南朝)	東	西				
任 官 年	372	396	413	416	420	421
第一皇 皇親大将軍						
皇親大将軍						
皇親大将軍						
皇親大将軍						
皇親大将軍						
皇親大将軍						
皇親大将軍						

問3	(1)	ウ	
		3点	史料の番号
(2)	5点	埼玉県 <small>①</small> の稲荷山古墳と熊本県の江田船山古墳からそれぞれ遺物が見つかり、ヤマト政権の支配が関東から九州まで <small>②</small> 広く及んでいたため。	
		③	

複数の資料に基づいて、学んだ知識を組み合わせ思考・判断して表現する問題【活用 II】

模範解答に「活用 II」の印を記入して提示。
考査問題用紙にはあえて「習得」「活用」は明記せず、事後に初めて確認。

第二部 重みづけ—「逆向き」で「指導と評価」を一体化


 ポイント

習得・活用問題を下記のように定義し、
教員間で目線合わせをしている

- 習得：
授業の範囲で扱った知識の確認（1問1答など）
- 活用：
知識を手段として抽象度の高い概念の説明
（活用1：使う情報が明らか）／
（活用2：誘導がなく使う情報を見抜く必要有）

また教科を越えて問題を共有したり、
大学入試問題を参考にしたりすることで、
全体の作問力を高めている

30 校内テストを観点別に評価するためのステップ

Step	検討・実践のポイント
1	各教科で育てたい資質・能力（≡この教科でいう思考力問題とはどういう問題か）を教科内で定義し、どのような問題を出題しなくてはいけないのかのイメージを教員間で共有する
2	現状の校内テストの問題を「知識・技能」を問う問題と「思考力・判断力・表現力」を問う問題に分類する
3	「知識・技能」を問う問題と、「思考力・判断力・表現力」を問う問題をどれくらいの割合で出題したいかを考える ★ポイント★ 知識・技能が多すぎた場合、生徒にどのようにこの問題を解いてほしいか？を考えると問い方が変わり、思考力問題になる。 思考力問題は0からつくり出すとも、背景や理由を説明させるなどして、既存の問題をベースにつくることができる。
4	教材の理解度だけでなく、資質・能力を意識しながら作問をする
5	生徒に各問題の「タグ」を提示するかどうかを決める
6	各観点について8割以上取れていたならAなど評価基準を決める

31 実践事例紹介



手法	学校名	ポイント
校内テスト	青森県立青森高等学校	# 観点別の作問・採点 # 問題のタグづけ
单元ごと自己評価シート	青森県立青森高等学校	# 生徒の自己評価 # シラバスとの連動
ワークシート	大阪府立鳳高等学校	# ルーブリックの作成 # 評価基準の見直し

単元ごと自己評価シート			
現代文B		学期 No.	
単元	評論	小単元	いのちのかたち
<p>「知識・技能」「思考力判断力表現力」「学びに向かう力」それぞれの項目についてこの単元での学びを振り返り、自分が該当すると思われる段階を選び、A B Cを大きく丸で囲んでください。</p>			
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
活用Ⅱ 使える	「抽象」「具体」といった抽象語彙を 支援無し で自らの判断で表現し使いこなすことができました。	段落の展開を把握する方法を 使いこなさず 、 支援無し に筆者の主張を論理的に表現することができた。	支援無し でも、自ら主体的に文章等を読み、身につけた語彙力・表現力を使いこなす姿勢を発揮した。
活用Ⅰ 使える	「抽象」「具体」といった抽象語彙を用いた表現について、 支援を得ながら 活用することができた。	支援を得ながら 段落の展開を把握し、筆者の主張を論理的に表現することができた。	支援を得られる場面 においては、抽象的な語彙を使って論理的に表現しようとする態度を発揮できた。
わかる 習得	「抽象」「具体」などの抽象概念の対義語の意味・用法が わかるにとどまった 。	段落の展開を把握する方法、筆者の主張を論理的に表現する方法が わかるにとどまった 。	抽象語彙の意味を知り、それを使って論理的に表現する姿勢・態度の重要性が わかるにとどまった 。
やり直し 未習得	「抽象」「具体」などの抽象概念の意味・用法が 理解できなかった 。	段落の展開把握の方法、筆者の主張を論理的に表現する方法が 理解できなかった 。	語彙力、論理的に表現する姿勢・態度を伸ばそうという 意欲が持てなかった 。
振り返りと見直し			
<input type="text"/>			

観点

ツール

単元ごと自己評価シート

評価者

生徒（自己評価）＋教員

タイミング

単元の終わり

評価基準

ルーブリックで生徒に提示


 ポイント

- シラバスと連動させることで作成負荷を小さくしつつ、生徒、先生にも浸透
- 3つの段階は、単元共通で
 - ①目標に対して「支援なしでできる」
 - ②目標に対して「支援があればできる」
 - ③わかるにとどまった
 - ④理解ができていない
 という基準を設定することで、ルーブリック作成の負荷は小さく
- 生徒の評価と先生の評価に差がある場合は、生徒と話し上方修正・下方修正
- 自己評価シートのチェックをする代わりに、課題テキストの点検回数は減らす

手法	学校名	ポイント
校内テスト	青森県立青森高等学校	# 観点別の作問・採点 # 問題のタグづけ
単元ごと自己評価シート	青森県立青森高等学校	# 生徒の自己評価 # シラバスとの連動
ワークシート	大阪府立鳳高等学校	# ルーブリックの作成 # 評価基準の見直し



＜国語総合・研究授業の内容＞

- 単元名：『城の崎にて』志賀直哉著
- 単元の目標：『城の崎にて』の主人公の心情と正岡子規の短歌を対比的に読み比べることで、自らの考えを深め、的確に表現する。
- 研究授業の内容
 本時は本単元の第6時である。本時では、脊椎カリエスを病み死の淵に臨みながら作歌している正岡子規の死生観と対比することで、第5時までに学習した『城の崎にて』の主人公の死に対する考え方への理解を深めるとともに、その違いを簡潔に説明させる。

STEP4

『城の崎にて』の「自分」が死に対して様々な考えを巡らせたのはなぜだと思いか。正岡子規と「自分」の状況や見つけたものの比較を踏まえて三百字以上で意見を述べよう。

観点	
ツール	ワークシート
評価者	教員
タイミング	授業
評価基準	ルーブリックを設定しているが、生徒への提示は現状なし

- 👇 ポイント
- ルーブリックの評価基準をもとに、複数教員で評価をし、ばらつきがどの程度出るか検証、その後ルーブリックを修正
 - ルーブリックは具体的な評価基準を決めて、プレが少ないものに

はじめに設定した評価基準では教員間でばらつきが大きく、評価基準を再作成

(1) 評価方法
ワークシート（「なぜ『自分』は死について考えを巡らせたのか？」）

(2) 評価基準

①当初の評価基準

A	B	C
<ul style="list-style-type: none"> ・300字以上書くことができている。 ・対比比較の構文を使っている。 ・「自分」が死を可能性として感じている点と正岡子規が死を現実のものとして捉えている点への指摘ができており、論理的な帰結になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・300字以上書くことができている。 ・対比比較の構文を使っていない。 ・「自分」が死を可能性として感じている点と正岡子規が死を現実のものとして捉えている点への指摘ができており、論理的な帰結になっている。 	300字以上書くことができている。



②新しく作成した評価基準

A	B	C
「自分」と正岡子規の状況の対比ができている。 「自分」が死について考えを巡らせた理由を複数考えられている。	「自分」と正岡子規の状況の対比ができている。 「自分」が死について考えを巡らせた理由を1つ考えられている。	Bの基準を満たしていない。
結果 A…5% B…92% C…3%		

思考・判断・表現の評価の流れ

- ①思考・判断・表現についての評価のルーブリックを作成。
- ②生徒が作成した成果物を、
複数の教員がルーブリックをもとに評価。
- ③上記②を集計し、先生間での評価のズレを確認。
- ④ルーブリックの内容を見直し、新しく評価基準を作成。

新しく作成した評価基準のポイント

- ①単元の目標、授業の内容に沿ったルーブリックとした。
- ②評価項目をシンプルに改定し、育成したい資質・能力がはぐくまれているかに絞って項目を設定した。
- ③B評価の到達度を基準とし、理由の個数など、具体的な評価基準を設けることで、ブレの少ない評価基準を作成。

ポイント 1

3つの観点について
今の取り組みを生かしながら
 どのように評価すればよいのか



ポイント 4

観点別の評価の実践

定期考査	習	管理	校内模試	定期考査
80%	80%	80%	80%	80%
60%	60%	60%	60%	60%
40%	40%	40%	40%	40%

知識・技能

思考力・判断力・表現力

校内テストの問題を知識・技能を問う問題と
 思考力・判断力・表現力を問う問題に
タグづけをして採点をする

主体的に学習に取り組む態度

出席や提出物に加えて
 まとめレポートや振り返りシートの
生徒の「自己評価」を活用する

手法	学校名	ポイント
単元ごと自己評価シート	青森県立青森高等学校	# 生徒の自己評価 # シラバスとの連動
ワークシート（単元の振り返り）	大阪府立鳳高等学校	# 単元前後の変化 # 今後の学習への展望
単元終わりのまとめレポート	静岡県立御殿場高等学校	# 単元内容に関するまとめ # 評価後の声かけ
授業ごとの振り返り・自己評価カード	茨城県立波崎柳川高等学校	# ボーダーラインとしてのBライン # 生徒とのコミュニケーション
単元前後の振り返りシート	県立A高等学校	# 単元前後の評価 # シンプルな評価基準

生徒の様子や、評価の目的に応じて評価方法を選ぶ。すべてを盛り込みすぎず、運用負荷を小さくすることもポイント。

カテゴリ例	観点	青森高校の事例
評価基準	ルーブリックか、Bラインのみか	ルーブリック
	生徒に示すか	示す
評価者	生徒による自己評価	○
	先生による評価	○
評価内容	単元内容の理解度の振り返り	○
	学び方の振り返り	○
	今後の見通し	○
評価タイミング	授業ごと	—
	単元ごと	○
	学期ごと（校内テストのタイミング）	—

手法	学校名	ポイント
単元ごと自己評価シート	青森県立青森高等学校	# 生徒の自己評価 # シラバスとの連動
ワークシート（単元の振り返り）	大阪府立鳳高等学校	# 単元前後の変化 # 今後の学習への展望
単元終わりのまとめレポート	静岡県立御殿場高等学校	# 単元内容に関するまとめ # 評価後の声かけ
授業ごとの振り返り・自己評価カード	茨城県立波崎柳川高等学校	# ボーダーラインとしてのBライン # 生徒とのコミュニケーション
単元前後の振り返りシート	県立A高等学校	# 単元前後の評価 # シンプルな評価基準

単元ごと自己評価シート			
現代文B		学期 No.	
単元	評論	小単元	いのちのかたち
<p>「知識・技能」「思考力判断力表現力」「学びに向かう力」それぞれの項目についてこの単元での学びを振り返り、自分が該当すると思われる段階を選び、A B Cを大きく丸で囲んでください。</p>			
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
使える 活用II	「抽象」「具体」といった抽象語彙を 支援無し で自らの判断で表現し 使いこなす ことができました。	段落の展開を把握する方法を 使いこなす 、 支援無し に筆者の主張を論理的に表現することができた。	支援無し でも、自ら主体的に文章等を読み、身につけた語彙力・表現力を使いこなす姿勢を発揮した。
使える 活用I	「抽象」「具体」といった抽象語彙を用いた表現について、 支援を得ながら活用 することができた。	支援を得ながら 段落の展開を把握し、筆者の主張を論理的に表現することができた。	支援を得られる場面 においては、抽象的な語彙を使って論理的に表現しようとする態度を発揮できた。
わかる 習得	「抽象」「具体」などの抽象概念の対義語の意味・用法が わかるにとどまった 。	段落の展開を把握する方法、筆者の主張を論理的に表現する方法が わかるにとどまった 。	抽象語彙の意味を知り、それを使って論理的に表現する姿勢・態度の重要性が わかるにとどまった 。
やり直し 未習得	「抽象」「具体」などの抽象概念の意味・用法が 理解できなかった 。	段落の展開把握の方法、筆者の主張を論理的に表現する方法が 理解できなかった 。	語彙力、論理的に表現する姿勢・態度を伸ばそうという 意欲が持てなかった 。
振り返りと見直し			
<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>			

観点

ツール	単元ごと自己評価シート
評価者	生徒（自己評価）＋教員
タイミング	単元の終わり
内容	到達度、振り返り、見直し
評価基準	ルーブリックで生徒に提示

ポイント

- シラバスと連動させることで作成負荷を小さくしつつ、生徒、先生にも浸透
- 3つの段階は、単元共通で
 - ①目標に対して「支援なしでできる」
 - ②目標に対して「支援があればできる」
 - ③わかるにとどまった
 - ④理解ができていない
 という規準を設定することで、ルーブリック作成の負荷は小さく
- 生徒の評価と先生の評価に差がある場合は、生徒と話し、上方修正・下方修正
- 自己評価シートのチェックをする代わりに、課題テキストの点検回数は減らす

手法	学校名	ポイント
単元ごと自己評価シート	青森県立青森高等学校	# 生徒の自己評価 # シラバスとの連動
ワークシート（単元の振り返り）	大阪府立鳳高等学校	# 単元前後の変化 # 今後の学習への展望
単元終わりのまとめレポート	静岡県立御殿場高等学校	# 単元内容に関するまとめ # 評価後の声かけ
授業ごとの振り返り・自己評価カード	茨城県立波崎柳川高等学校	# ボーダーラインとしてのBライン # 生徒とのコミュニケーション
単元前後の振り返りシート	県立A高等学校	# 単元前後の評価 # シンプルな評価基準

倫理 単元シート 3年 組 番 名前
第4節 自己実現と幸福 教 p.103～ 資 p.126～

1 単元のはじめに【この単元で考えてほしいこと！】

「正義」ってなんだろう？

なにが「正義」「良い」「悪い」の基準は？そもそも基準は必要？
☆☆このテーマについて、単元の最後に考えてもらいます！☆☆

・現時点の考えは…？

2 単元の途中で…
・授業中に考えたこと、使えそうなこと、考えの変化…適宜使ってください

3 単元の学習を終えて
・自分自身の学習への取り組み 良（5・4・3・2・1）悪
・なぜそのような評価をしたのか？

・最初と比べて自分の考え方にどのような変化があったか？

・今後の学習に生かしたいこと・これからも考えたいこと・疑問に思ったこと

(1) 評価方法


ワークシート（単元の振り返り）

「今後の学習に生かしたいこと・これからも考えたいこと・疑問に思ったこと」

(2) 評価基準

A	B
単元の学習を振り返って、今後の学習に生かそうとすることを、具体的に見出している。	単元の学習を振り返って、今後の学習に生かそうとすることを見出している。

観点	
ツール	ワークシート（単元の振り返り）
評価者	教員＋（生徒の自己評価）
タイミング	単元の終わり
内容	考えの変化、展望 など
評価基準	現状は提示なし 振り返りワークシートの意義や目的、評価基準を事前に示すことで成果物の質も高まる可能性があり、事前にルーブリックを提示するなどの運用も考えていきたい。


 ポイント

- 単元の最初、途中、最後の考えが1枚にまとまることで成長を感じられる
- 評価の理由を聞くことで、生徒が自分の評価の妥当性を考えられる

手法	学校名	ポイント
単元ごと自己評価シート	青森県立青森高等学校	# 生徒の自己評価 # シラバスとの連動
ワークシート（単元の振り返り）	大阪府立鳳高等学校	# 単元前後の変化 # 今後の学習への展望
単元終わりのまとめレポート	静岡県立御殿場高等学校	# 単元内容に関するまとめ # 評価後の声かけ
授業ごとの振り返り・自己評価カード	茨城県立波崎柳川高等学校	# ボーダーラインとしてのBライン # 生徒とのコミュニケーション
単元前後の振り返りシート	県立A高等学校	# 単元前後の評価 # シンプルな評価基準

論理展開を確かめる 単元のまとめ

HRNO 氏名 _____

この単元では評論の読み方とグラフや数字の見方を学習しました。授業を踏まえ、評論を読む上で注意すべきことを論じなさい。

◆ルーブリック

A	<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り扱った評論を読むための具体的な方法をもとに、授業での気づきや自分なりの視点を含めて、評論文を上で注意すべき点を記述できている。 相手に伝わるように論理的かつ表現に注意して書かれている。
B	<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り扱った評論を読むための具体的な方法をもとに、評論文を読む上で注意すべき点を記述できている。 相手に伝わる表現で書かれている。
C	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだことが書かれていない。 文章表現が適切でない。 テーマからずれている。字数が不足している。

観点	
ツール	単元終わりのまとめレポート
評価者	教員
タイミング	単元の終わり
内容	単元の内容
評価基準	ルーブリックで生徒に提示


 ポイント

- 生徒にルーブリックを提示することで、目標を意識して取り組むことができる
- Cがついた生徒には、落ち込む必要はないことを伝え、どうしてCだったかをルーブリックをもとに振り返るように声かけし、次の学びにつながるようにしている
 - ※テーマがずれている場合が多いので、それが改善されればよいのだと生徒が気づき、次の単元では気をつけるようになる

手法	学校名	ポイント
単元ごと自己評価シート	青森県立青森高等学校	# 生徒の自己評価 # シラバスとの連動
ワークシート（単元の振り返り）	大阪府立鳳高等学校	# 単元前後の変化 # 今後の学習への展望
単元終わりのまとめレポート	静岡県立御殿場高等学校	# 単元内容に関するまとめ # 評価後の声かけ
授業ごとの振り返り・自己評価カード	茨城県立波崎柳川高等学校	# ボーダーラインとしてのBライン # 生徒とのコミュニケーション
単元前後の振り返りシート	県立A高等学校	# 単元前後の評価 # シンプルな評価基準

振り返り・自己評価カード（教科： _____）

組 員 名 前 _____

日付 (曜日)	始めのチャームまでに授業準備を終えて整理しているか	忘れ物はしていないか	今日の目標	今日の目標は達成できたか	授業内容は理解できたか	振り返り
月 日 ()	はい / いいえ	はい / いいえ		A B C	A B C	
月 日 ()	はい / いいえ	はい / いいえ		A B C	A B C	
月 日 ()	はい / いいえ	はい / いいえ		A B C	A B C	
月 日 ()	はい / いいえ	はい / いいえ		A B C	A B C	
月 日 ()	はい / いいえ	はい / いいえ		A B C	A B C	
月 日 ()	はい / いいえ	はい / いいえ		A B C	A B C	
月 日 ()	はい / いいえ	はい / いいえ		A B C	A B C	
月 日 ()	はい / いいえ	はい / いいえ		A B C	A B C	
月 日 ()	はい / いいえ	はい / いいえ		A B C	A B C	
月 日 ()	はい / いいえ	はい / いいえ		A B C	A B C	

-18-

観点

ツール

振り返り・自己評価カード

評価者

生徒（自己評価）

タイミング


毎授業の始めと終わり

内容

目標への到達度、振り返り

評価基準

生徒に提示

 ポイント

- 授業では、必ず本時の目標とそのまとめを記載。
授業の始めに生徒は目標を記載し、それができていたらA、できていなかったらC、というボーダーラインとしてBを設定。
生徒は自信を持ってAをつけることができる。
- 振り返りにコメントをつけて返したり、よいコメントのものを毎時間紹介したことで、始めは「完璧」「わかった」しか書いていなかった生徒たちが、自分もコメントが欲しいと、文章を書くように。
- 定期テストは今年度より廃止

日付 (曜日)	始めのチャームまでに授業準備を終えて整理しているか	忘れ物はしていないか	今日の目標	今日の目標は達成できたか	授業内容は理解できたか	振り返り
5月18日 (火)	はい / いいえ	はい / いいえ	等比数列の和を 求める。	A B C	A B C	等差、等比数列の説明ができて よかった。これがみんなの 目標をクリアしてきて、Y...

手法	学校名	ポイント
単元ごと自己評価シート	青森県立青森高等学校	# 生徒の自己評価 # シラバスとの連動
ワークシート（単元の振り返り）	大阪府立鳳高等学校	# 単元前後の変化 # 今後の学習への展望
単元終わりのまとめレポート	静岡県立御殿場高等学校	# 単元内容に関するまとめ # 評価後の声かけ
授業ごとの振り返り・自己評価カード	茨城県立波崎柳川高等学校	# ボーダーラインとしてのBライン # 生徒とのコミュニケーション
単元前後の振り返りシート	県立A高等学校	# 単元前後の評価 # シンプルな評価基準

観点別学習状況の評価の方法

(観点)「主体的に学習に取り組む態度」

② 自らの学習を調整しようとする側面

(調整力)の評価

- ・この力は一斉講義型授業一辺倒では不可能
- ・必ず生徒自身に申告させなくてはならない
- ・「振り返りシート」の活用
- ・学期に一回ではなく 単元や教材ごとに申告させる
- ・できれば 単元ごとの「始め」と「終わり」に2回

(例)・単元の「始め」に

この単元で知りたいこと
どのように学習していくつもりか

それぞれ3段階で
評価する
基本は「2」

・単元の「終わり」に

何がわかったのか
さらに追究したいこと
生活との関係
どのように学習すれば良かったと思うか

単元の「途中」なら
何がわかったのか
これからどう学習するか¹等

観点

ツール

振り返りシート

評価者

生徒の自己評価

タイミング

単元・教材ごとの始めと終わり

内容

単元の前後の変化

評価基準

生徒に提示する予定

① 粘り強い取組を行おうとする側面 (粘り強さ)の評価

小テスト・授業中の態度 宿題 等

3:良 2:普通 1:努力不足 0:やらない

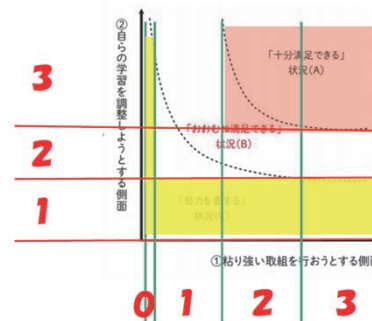

② 自らの学習を調整しようとする側面 (調整力)の評価

振り返りシート

3:良 2:書いてある 1:書いてない

*「ルーブリック評価」まで導入していけるかどうか

「主体的に学習に取り組む態度」



 ポイント

- 振り返りシートの評価について、書いていけば2というシンプルな基準にすることで評価者の負担を小さくしている
- シラバスに落とし込み、生徒に提示することで、生徒のモチベーションアップと基準の明確化・標準化を図る予定

2つの具体的なポイントがわかり、2学期以降の検討の見通しが立つことを目指します

ポイント 1

3つの観点について

今の取り組みを生かしながら

どのように評価すればよいのか



校内テストや振り返りシート等を活用した
具体的な事例と取り組みのポイントをお伝えします！

ポイント 2

観点別評価と評定のひもづけについて

運用しやすい形で

どのように設計すればよいのか



教育委員会から方針が示されている場合もあるため
参考にさせていただけるパターンを複数ご紹介します！

ポイント 2

観点別評価と評定のひもづけについて
運用しやすい形で

どのように設計すればよいのか



ABC ポイント 5

単元や校内テストごとに評価した材料をもとに、どのように観点別の総括的な評価を行うか？

	知識・技能	思・判・表	主体性
単元①	A	B	B
単元②	A	A	A
単元③	A	A	A

	知識・技能	思・判・表	主体性
実カテスト①	A	B	—
1 中間	A	B	—
1 期末	A	A	—
実カテスト②	A	C	—
2 中間	B	A	—
2 期末	B	A	—
実カテスト③	B	C	—
学年末	A	A	—
考/実総合	A	A	—

ABC ポイント 6

観点別の総括的な評価から最終的な評定にどのように結びつけるか

実カテスト	A	B	A	B	A	B	C	C	C
A	5	5	5	4	4	4	3	3	3
B	4	4	4	4	4	4	3	3	3
C	3	3	3	3	3	3	3	3	3

評点換算	評定	思考・判断・表現/知識・技能/主体性
100	5	AAA
95	5	AAB, ABA
90	5	ABB, BAA
85	4	BAB, BBA, AAC
80	4	BBB, CAA, ABC
75	4	CAB, BCA, CBA
70	4	CBB, BBC, BCB
65	3	CAC
60	3	CCB, BCC, CCB
55	—	—
50	2	CCC

		評価カテゴリー	知識・技能	断 思 ・ 考 表 現 判	習 主 む に 態 取 度 り 組 学	評 定
1801	青森太郎	(1) 単元総合	A	A	A	
1801	青森太郎	(2) 考査/実テ	A	A	—	
1801	青森太郎	(3) その他	—	B	A	
1801	青森太郎	— 総合	A	A	A	5

■ パターン① 多いものを採用

数が多いものを採用するパターン：AAB であれば A

※このパターンの場合はAABもAACも同じ評価になる

■ パターン② 評点化

「A = ◎点」「B = ●点」のように配点して観点ごとに平均点を
出し、「知識・技能について◎点以上なら総合A」、
「思考判断表現について●点以下ならB」のように設計

ポイント2

観点別評価と評定のひもづけについて

運用しやすい形で

どのように設計すればよいのか



ABC ポイント 5

単元や校内テストごとに評価した材料をもとに、どのように観点別の総括的な評価を行うか？

	知識・技能	思考・判断・表現	主体性
単元①	A	B	B
単元②	A	A	A
単元③	A	A	A

	知識・技能	思考・判断・表現	主体性
実カテスト①	A	B	-
1 中間	A	B	-
1 期末	A	A	-
実カテスト②	A	C	-
2 中間	B	A	-
2 期末	B	A	-
実カテスト③	B	C	-
学年末	A	A	-
考/実総合	A	A	-

ABC ポイント 6

観点別の総括的な評価から最終的な評定にどのように結びつけるか

主体性 知識・技能	A	B	A	B	A	B	C	C	C	C
思考・判断・表現	5	5	5	4	4	4	3	3	3	3
知識・技能	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3
主体性	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

評点換算	評定	思考・判断・表現/知識・技能/主体性
100	5	AAA
95	5	AAB ABA
90	5	ABB BAA
85	4	BAB BBA AAC
80	4	BBB CAA ABC
75	4	CAB BCA CBA
70	4	CBB BBC BCB
65	3	CAC
60	3	CBC BCC CCB
55	-	-
50	2	CCC

【注意】ご紹介する換算パターンはあくまでも「事例」であり、ルールではありません

学校として育てたい資質・能力や、生徒の状況を鑑み、各校でご検討ください

※エリアによっては教育委員会からの規定がある場合もあるので、それに従ってください

手法		詳細
3 観点の重みづけ無し (1 : 1 : 1)	パターン①	3観点の合計点方式 (A = 3、B = 2、C = 1 など)
	パターン②	各観点の総括的達成状況を100%で計算し、その平均に基づいて算出
	パターン③	各観点の総括的達成状況を100%で計算し、それを5段階評価 ABCの組み合わせで算出
3 観点のうち、 一部の観点到に重みづけ	パターン④	思考力・判断力・表現力に重みづけをした評定換算表方式
	パターン⑤	思考力・判断力・表現力に重みづけをした評点化方式

3観点到重みづけはせず、A = 3、B = 2、C = 1とし、その合計で評価

5段階評価への数値表（合計）A = 3、B = 2、C = 1とする

3観点の合計	評定
9	5
8、7	4
6、5	3
4	2
3	1

【例】

知識・技能 = B ⇒ 2

思考力・判断力・表現力 = C ⇒ 1

主体的に学習に取り組む態度 = B ⇒ 2

3観点の合計 = 5 数値表から評定は3

★参考資料をハイスクールオンライン 新課程レポート に掲載中！ぜひご覧ください！
 ハイスクールオンラインTOP >画面中央 新課程（緑色のボタン） >【先生インタビュー】観点別学習状況の評価の実践
https://bhsso.benesse.ne.jp/hs_online/shinkatei/report/210006.html

4. 学年末の評定への総括方法①（総括的達成状況の平均から総括する方法）

・各観点の総括的達成状況 0～100%の平均に基づいて算出する。

※各観点の総括的達成状況＝各観点の1～3学期の達成状況の平均

【総括的達成状況と評定の対応表】

総括的 達成状況 の平均	評価	評定	参考
100	A	5	A
95～99			
90～94			
85～89			
80～84			
75～79	4	4	
70～74			
65～69	B	3	B
60～64			
55～59			
50～54			
45～49	C	2	2
40～44			
35～39		1	C
30～34			
25～29			
20～24			
～19			

※「参考」は府の手引きの例

①各観点の総括的達成状況の平均を算出

【例】

	知識・技能	思考力・判断力・ 表現力	主体的に学習に 取り組む態度	
1学期	60	50	70	
2学期	70	60	80	
3学期	80	70	90	
総括 (平均)	70	60	80	70 → 4
観点別評価	A	B	A	

②対応表から換算
評定

※検討中のものであり、変更になる可能性があります

5. 学年末の評定への総括方法②（5段階の観点別評価の個数から総括する方法）

- ・評定を算出するために、各観点の総合的達成状況0～100%に基づいて5段階の評定を算出する。
- ※各観点の総合的達成状況＝各観点の1～3学期の達成状況の平均
- ・学年末の観点別5段階の評価結果の組み合わせから、評定を算出する。

【総合的達成状況と5段階評価の対応表】

総合的達成状況	評価
100	A+
95～99	
90～94	
85～89	
80～84	
75～79	A
70～74	
65～69	B
60～64	
55～59	
50～54	
45～49	C
40～44	
35～39	
30～34	C-
25～29	
20～24	
～19	

【評価の組み合わせと評定の対応表】

組み合わせ	評定
A+A+A+, A+A+A, A+AA	5
AAA, AAB, A+A+B, A+AB	4
ABB, A+BB AAC, A+A+C, A+AC, AAC-, A+A+C-, A+AC-	3
ABC, A+BC, ABC-, A+BC-	
ACC, A+CC, A+CC-, A+C-C-, ACC-, AC-C-	
BBB BBC, BBC-	2
CCC, BCC, BCC-, BC-C-	
C-C-C-, C-C-C, C-CC	1

- ・「3」を基本として、
AAB以上が「4」、BCC以下が「1」
- ・AAAのうち、A+がある⇒「5」
- ・CCCのうち、C-がある⇒「1」

(参考資料)府の手引きの例

組み合わせ	評定
AAAの中で特に程度が高いもの	5
AAA, AAB	4
ABB, AAC, ABC, ACC, BBB, BBC	3
BCC, CCC	2
CCCの中で一層努力を要するもの	1

①各観点の総合的達成状況の平均を算出

【例】

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
1学期	60	50	70
2学期	70	60	80
3学期	80	70	90
総括 (平均)	70	60	80

②組み合わせで換算
評定

観点別評価	A	B	A (A+)	ABA+ → 4
-------	---	---	--------	----------

※検討中のものであり、変更になる可能性があります

【パターン④】3観点のうち、一部の観点到に重みづけ & 評定換算表



3観点のうち、思考力・判断力・表現力に重みづけ

換算表を作成し、思考力・判断力・表現力がBであれば主体性+知識・技能がAAでも評定が4になる設計

「学習評価」を「評定」へ落とし込む「仕組み」案（4）

観点別評価→評定換算表方式

簡便性

		評価カテゴリー	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評定
1801	青森太郎	(1) 単元総合	A	A	A	
1801	青森太郎	(2) 考查/実テ	A	A	—	
1801	青森太郎	(3) その他	—	B	A	
1801	青森太郎	— 総合	A	A	A	5

※観点別評価の総合換算の方式は今後変更になる可能性があります。

主体性	A	B	A	B	A	B	C	C	C	
知識・技能	A	A	B	B	C	C	C	A	B	
思考・判断・表現	A	5	5	5	4	4	4	3	3	3
	B	4	4	4	4	4	4	3	3	3
	C	3	3	3	3	3	3	3	3	3
総合評価										

3観点のうち、「思考・判断・表現」に重みづけをした「換算表」を設計。

【換算表のみかた】

「思考・判断・表現」をヨコに、主体性+知識・技能の組み合わせをタテになぞって、クロスしたマスが「評定」。

「思考・判断・表現」が「B」ならば、「主体性+知識・技能=AA」でも、総合評価は「4」となる。ただし、いくら「思考・判断・表現」が「A」でも、主体性「C」ならば評定は「3」となる。

【パターン⑤】3観点のうち、一部の観点到に重みづけ & 評点化



3観点のうち、思考力・判断力・表現力に重みづけ

評点換算表を作成し、AAAが100点になるように配点 評点換算と評定が対応

「学習評価」を「評定」へ落とし込む「仕組み」案（5）

観点別評価→評点化方式

明瞭性 妥当性 実行可能性

※観点別評価の総合換算の方式等は今後変更になる可能性があります。

評価カテゴリー	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評定
1801 青森太郎 (1) 単元総合	A	A	A	
1801 青森太郎 (2) 考査/実テ	A	A	—	
1801 青森太郎 (3) その他	—	B	A	
1801 青森太郎 - 総合	A	A	A	5

評点換算表

観点	評価	評点	評価	評点	評価	評点
思考・判断・表現	A	50	B	40	C	30
知識・技能	A	25	B	20	C	10
主体性	A	25	B	20	C	10

評点換算	評定	思考・判断・表現 / 知識・技能 / 主体性
100	5	AAA
95	5	AAB ABA
90	5	ABB BAA
85	4	BAB BBA AAC
80	4	BBB CAA ABC
75	4	CAB BCA CBA
70	4	CBB BBC BCB
65	3	CAC
60	3	CBC BCC CCB
55	-	- - -
50	2	CCC

3観点のうち、「思考・判断・表現」に重みづけをした「評点換算表」を設計。AAA=100点になるように配点を設定。

第三部 仕組み 一目でわかり、無理なく

2つの具体的なポイントがわかり、2学期以降の検討の見通しが立つことを目指します

ポイント 1

3つの観点について

今の取り組みを生かしながら

どのように評価すればよいのか



校内テストや振り返りシート等を活用した
具体的な事例と取り組みのポイントをお伝えします！

ポイント 2

観点別評価と評定のひもづけについて

運用しやすい形で

どのように設計すればよいのか



教育委員会から方針が示されている場合もあるため
参考にさせていただけるパターンを複数ご紹介します！

先進校の共通点はまずは実践してみて軌道修正すること

ベネッセも情報提供を通じて、引き続き各学校の「新課程に向けた学びの設計と実践」を支援して参ります。

【これからの評価】

生徒を前向きにし、学習改善へ
+ 先生方の指導改善へ

【3観点の評価】

知識・技能、思考・判断・表現力は
校内テストのタグづけがおすすめ！
主体性は自己評価も活用！

【評定への換算】

育てたい資質・能力や生徒の現状を
鑑みて、参考事例をもとに検討

1 学期	夏休み～ 2 学期	3 学期
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 評価観の転換と理解浸透 <input type="checkbox"/> 学校として育てたい資質・能力と 教科で育てたい資質・能力のひもづけ <input type="checkbox"/> シラバスの枠組み作成 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 教科・科目ごとにシラバスを作成 <input type="checkbox"/> 他教科とシラバスを共有しブラッシュアップ <input type="checkbox"/> 通知表のフォーマットの検討、 観点別評価と評定の連動を検討 <input type="checkbox"/> 期末テストを観点別に作問・採点 <input type="checkbox"/> 1つの単元でまとめレポートや 振り返りシートを活用し主体性を評価 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 検討した評定の換算ロジックをもとに 仮で評定を算出 <input type="checkbox"/> 教科書を見ながら単元計画を立案 <input type="checkbox"/> 次年度に向けた直前確認

事後アンケートについて

チャットで流れるURL、もしくは
2次元コードからご回答ください。



【アンケート回答でDLいただけます！】
青森高校 シラバス
（数学Ⅰ・コミュ英・地理B・保健体育・家庭基礎）



入力 → 確認 → 完了

【テスト】

第5回新課程1期生の入学に向けた学びの実践と設計事後アンケート

アンケート回答後
表示されたURLより
シラバスをDLしてください。

科目	保健体育(体育)	授業時数	週 2 単位	履修学年・類型	1 学年	男女共同																
目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能や体力を向上させ、運動の楽しさを体感し味わうことができる。 公正、協定、責任、奉獻などに対する意欲を高めるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたってスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。																					
■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価の観点</th> <th>知識・技能</th> <th>思考力・判断力・表現力</th> <th>学びに向かう力・人間性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価目標1</td> <td>運動の合理的な実践を通して練習方法を工夫し、試合における役割を認識したうえで、各領域の運動の特性に応じて合理的な役割を身に付けることができる。</td> <td>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題の合理的・計画的な解決に向けて思考力、判断力を高めることができる。</td> <td>運動の楽しさを感じ、仲間と協力して課題を克服し、責任を担い、判断することができる。</td> </tr> <tr> <td>評価目標2</td> <td>運動の合理的な実践を通してチームを構成し、チームを成して練習をしたりゲームをして勝敗を競い合うことができる。</td> <td>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、解決することができる。</td> <td>運動の楽しさを感じ、仲間と協力して課題を克服し、責任を担い、判断することができる。</td> </tr> <tr> <td>評価目標3</td> <td>運動の合理的な実践を通して健康・安全に配慮し、運動技術(技)の名称や実施の方法及び効果的な学習の仕方を理解することができる。</td> <td>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、解決することができる。</td> <td>運動の楽しさを感じ、仲間と協力して課題を克服し、責任を担い、判断することができる。</td> </tr> </tbody> </table>						評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	評価目標1	運動の合理的な実践を通して練習方法を工夫し、試合における役割を認識したうえで、各領域の運動の特性に応じて合理的な役割を身に付けることができる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題の合理的・計画的な解決に向けて思考力、判断力を高めることができる。	運動の楽しさを感じ、仲間と協力して課題を克服し、責任を担い、判断することができる。	評価目標2	運動の合理的な実践を通してチームを構成し、チームを成して練習をしたりゲームをして勝敗を競い合うことができる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、解決することができる。	運動の楽しさを感じ、仲間と協力して課題を克服し、責任を担い、判断することができる。	評価目標3	運動の合理的な実践を通して健康・安全に配慮し、運動技術(技)の名称や実施の方法及び効果的な学習の仕方を理解することができる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、解決することができる。	運動の楽しさを感じ、仲間と協力して課題を克服し、責任を担い、判断することができる。
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性																			
評価目標1	運動の合理的な実践を通して練習方法を工夫し、試合における役割を認識したうえで、各領域の運動の特性に応じて合理的な役割を身に付けることができる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題の合理的・計画的な解決に向けて思考力、判断力を高めることができる。	運動の楽しさを感じ、仲間と協力して課題を克服し、責任を担い、判断することができる。																			
評価目標2	運動の合理的な実践を通してチームを構成し、チームを成して練習をしたりゲームをして勝敗を競い合うことができる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、解決することができる。	運動の楽しさを感じ、仲間と協力して課題を克服し、責任を担い、判断することができる。																			
評価目標3	運動の合理的な実践を通して健康・安全に配慮し、運動技術(技)の名称や実施の方法及び効果的な学習の仕方を理解することができる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、解決することができる。	運動の楽しさを感じ、仲間と協力して課題を克服し、責任を担い、判断することができる。																			
■いつ、何を学ぶか【学習内容】	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学習内容</th> <th>【教材】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 学期</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 必1 体つくり運動 (※ほだし、体力を高める運動) 必2 球技運動(バレー・軟式野球) 必3 球技運動(サッカー・バスケット) 必4 球技運動(バドミントン) 必5 球技運動(卓球) 必6 球技運動(テニス) 必7 球技運動(バドミントン) 必8 球技運動(卓球) 必9 球技運動(テニス) </td> <td>【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)</td> </tr> <tr> <td>2 学期</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 必10 球技運動(バドミントン) 必11 球技運動(卓球) 必12 球技運動(テニス) 必13 球技運動(バドミントン) 必14 球技運動(卓球) 必15 球技運動(テニス) </td> <td>【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)</td> </tr> <tr> <td>3 学期</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 必16 球技運動(バドミントン) 必17 球技運動(卓球) 必18 球技運動(テニス) </td> <td>【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)</td> </tr> </tbody> </table>						学習内容	【教材】	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 必1 体つくり運動 (※ほだし、体力を高める運動) 必2 球技運動(バレー・軟式野球) 必3 球技運動(サッカー・バスケット) 必4 球技運動(バドミントン) 必5 球技運動(卓球) 必6 球技運動(テニス) 必7 球技運動(バドミントン) 必8 球技運動(卓球) 必9 球技運動(テニス) 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 必10 球技運動(バドミントン) 必11 球技運動(卓球) 必12 球技運動(テニス) 必13 球技運動(バドミントン) 必14 球技運動(卓球) 必15 球技運動(テニス) 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 必16 球技運動(バドミントン) 必17 球技運動(卓球) 必18 球技運動(テニス) 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)					
学習内容	【教材】																					
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 必1 体つくり運動 (※ほだし、体力を高める運動) 必2 球技運動(バレー・軟式野球) 必3 球技運動(サッカー・バスケット) 必4 球技運動(バドミントン) 必5 球技運動(卓球) 必6 球技運動(テニス) 必7 球技運動(バドミントン) 必8 球技運動(卓球) 必9 球技運動(テニス) 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)																				
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 必10 球技運動(バドミントン) 必11 球技運動(卓球) 必12 球技運動(テニス) 必13 球技運動(バドミントン) 必14 球技運動(卓球) 必15 球技運動(テニス) 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)																				
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 必16 球技運動(バドミントン) 必17 球技運動(卓球) 必18 球技運動(テニス) 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)																				
■いつ、何を学ぶか【授業内容】	<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業内容</th> <th>【教材】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 学期</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 1 家庭基礎 2 家庭基礎 3 家庭基礎 4 家庭基礎 5 家庭基礎 6 家庭基礎 7 家庭基礎 8 家庭基礎 9 家庭基礎 </td> <td>【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)</td> </tr> <tr> <td>2 学期</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 10 家庭基礎 11 家庭基礎 12 家庭基礎 13 家庭基礎 14 家庭基礎 15 家庭基礎 16 家庭基礎 17 家庭基礎 18 家庭基礎 19 家庭基礎 </td> <td>【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)</td> </tr> <tr> <td>3 学期</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 20 家庭基礎 21 家庭基礎 22 家庭基礎 </td> <td>【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)</td> </tr> </tbody> </table>						授業内容	【教材】	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 1 家庭基礎 2 家庭基礎 3 家庭基礎 4 家庭基礎 5 家庭基礎 6 家庭基礎 7 家庭基礎 8 家庭基礎 9 家庭基礎 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 10 家庭基礎 11 家庭基礎 12 家庭基礎 13 家庭基礎 14 家庭基礎 15 家庭基礎 16 家庭基礎 17 家庭基礎 18 家庭基礎 19 家庭基礎 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 20 家庭基礎 21 家庭基礎 22 家庭基礎 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)					
授業内容	【教材】																					
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 1 家庭基礎 2 家庭基礎 3 家庭基礎 4 家庭基礎 5 家庭基礎 6 家庭基礎 7 家庭基礎 8 家庭基礎 9 家庭基礎 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)																				
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 10 家庭基礎 11 家庭基礎 12 家庭基礎 13 家庭基礎 14 家庭基礎 15 家庭基礎 16 家庭基礎 17 家庭基礎 18 家庭基礎 19 家庭基礎 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)																				
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 20 家庭基礎 21 家庭基礎 22 家庭基礎 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)																				

科目	保健体育(体育)	授業時数	週 2 単位	履修学年・類型	1 学年	男女共同
目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能や体力を向上させ、運動の楽しさを体感し味わうことができる。 公正、協定、責任、奉獻などに対する意欲を高めるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたってスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。					

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
評価目標1	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活の充実向上に必要な、基礎・基本的な知識や技術を身につけている。	家庭や地域の生活について見識し、課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組んでいる。
評価目標2	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活の充実向上に必要な、基礎・基本的な知識や技術を身につけている。	家庭や地域の生活について見識し、課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組んでいる。
評価目標3	家庭生活を向上させるために必要な、基礎・基本的な知識や技術を身につけている。	家庭生活の課題を見つけ、解決をめざして考え、実践して振り返ることができる。	将来の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して取り組み、実践的な態度を身につけている。

■いつ、何を学ぶか【学習内容】

学習内容	【教材】	
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 必1 体つくり運動 (※ほだし、体力を高める運動) 必2 球技運動(バレー・軟式野球) 必3 球技運動(サッカー・バスケット) 必4 球技運動(バドミントン) 必5 球技運動(卓球) 必6 球技運動(テニス) 必7 球技運動(バドミントン) 必8 球技運動(卓球) 必9 球技運動(テニス) 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 必10 球技運動(バドミントン) 必11 球技運動(卓球) 必12 球技運動(テニス) 必13 球技運動(バドミントン) 必14 球技運動(卓球) 必15 球技運動(テニス) 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 必16 球技運動(バドミントン) 必17 球技運動(卓球) 必18 球技運動(テニス) 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)

科目	家庭基礎	授業時数	週 2 単位	履修学年・類型	1 学年	男女共同
目標	人の一生と家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的態度を身につける。					

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
評価目標1	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活の充実向上に必要な、基礎・基本的な知識や技術を身につけている。	家庭や地域の生活について見識し、課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組んでいる。
評価目標2	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域生活の充実向上に必要な、基礎・基本的な知識や技術を身につけている。	家庭や地域の生活について見識し、課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して意欲的に取り組んでいる。
評価目標3	家庭生活を向上させるために必要な、基礎・基本的な知識や技術を身につけている。	家庭生活の課題を見つけ、解決をめざして考え、実践して振り返ることができる。	将来の生活について関心を持ち、その充実、向上を目指して取り組み、実践的な態度を身につけている。

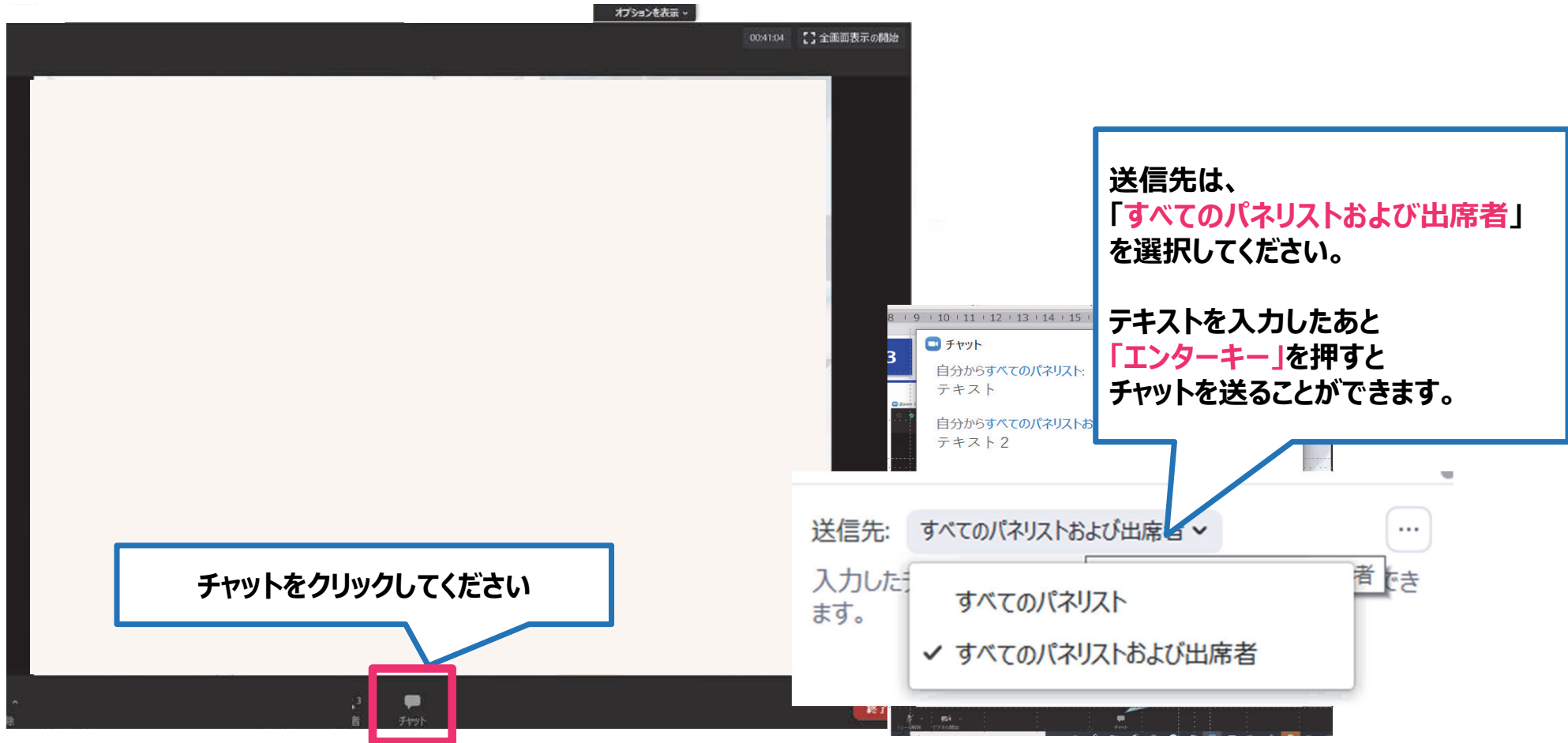
■いつ、何を学ぶか【学習内容】

学習内容	【教材】	
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 1 家庭基礎 2 家庭基礎 3 家庭基礎 4 家庭基礎 5 家庭基礎 6 家庭基礎 7 家庭基礎 8 家庭基礎 9 家庭基礎 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 10 家庭基礎 11 家庭基礎 12 家庭基礎 13 家庭基礎 14 家庭基礎 15 家庭基礎 16 家庭基礎 17 家庭基礎 18 家庭基礎 19 家庭基礎 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 20 家庭基礎 21 家庭基礎 22 家庭基礎 	【大塚新書部】 アクティブスポーツ (総合)

質疑応答



63 チャットの投稿について（PCの場合）



The image shows a screenshot of a PC chat interface. A large white rectangular area is highlighted with a blue border, and a callout box points to it with the text "チャットをクリックしてください". In the bottom right corner of the interface, a "チャット" icon is highlighted with a red square. A callout box points to this icon with the text "チャットをクリックしてください". Another callout box points to the "送信先" dropdown menu, which is currently set to "すべてのパネリストおよび出席者". A second callout box points to the dropdown menu with the text "送信先は、「すべてのパネリストおよび出席者」を選択してください。" and "テキストを入力したあと「エンターキー」を押すとチャットを送ることができます。". A third callout box points to the dropdown menu options, which are "すべてのパネリスト" and "すべてのパネリストおよび出席者" (with a checkmark).

チャットをクリックしてください

送信先は、「すべてのパネリストおよび出席者」を選択してください。

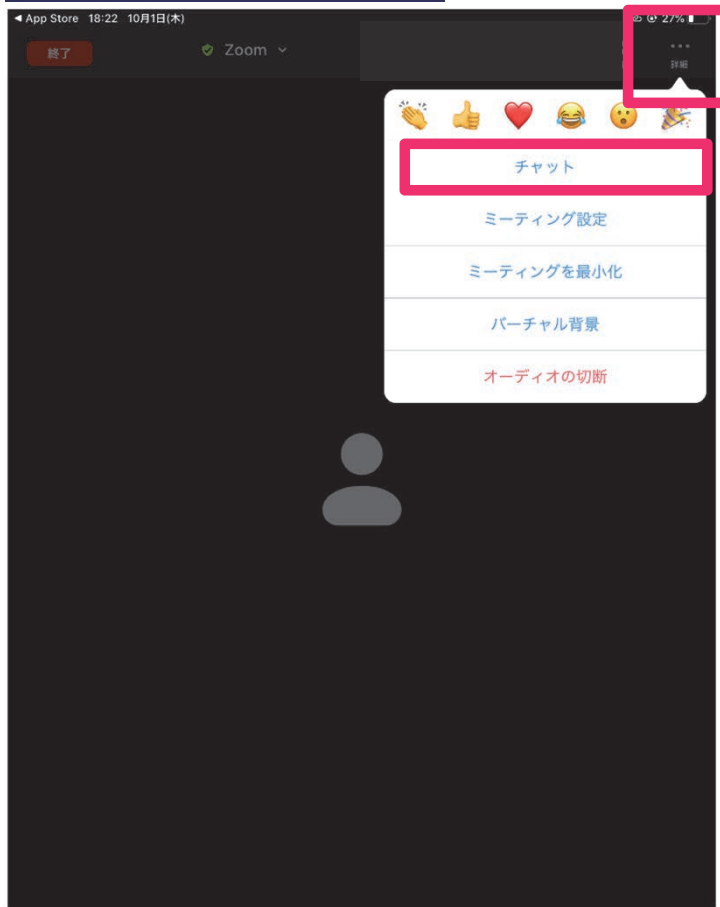
テキストを入力したあと「エンターキー」を押すとチャットを送ることができます。

送信先: すべてのパネリストおよび出席者

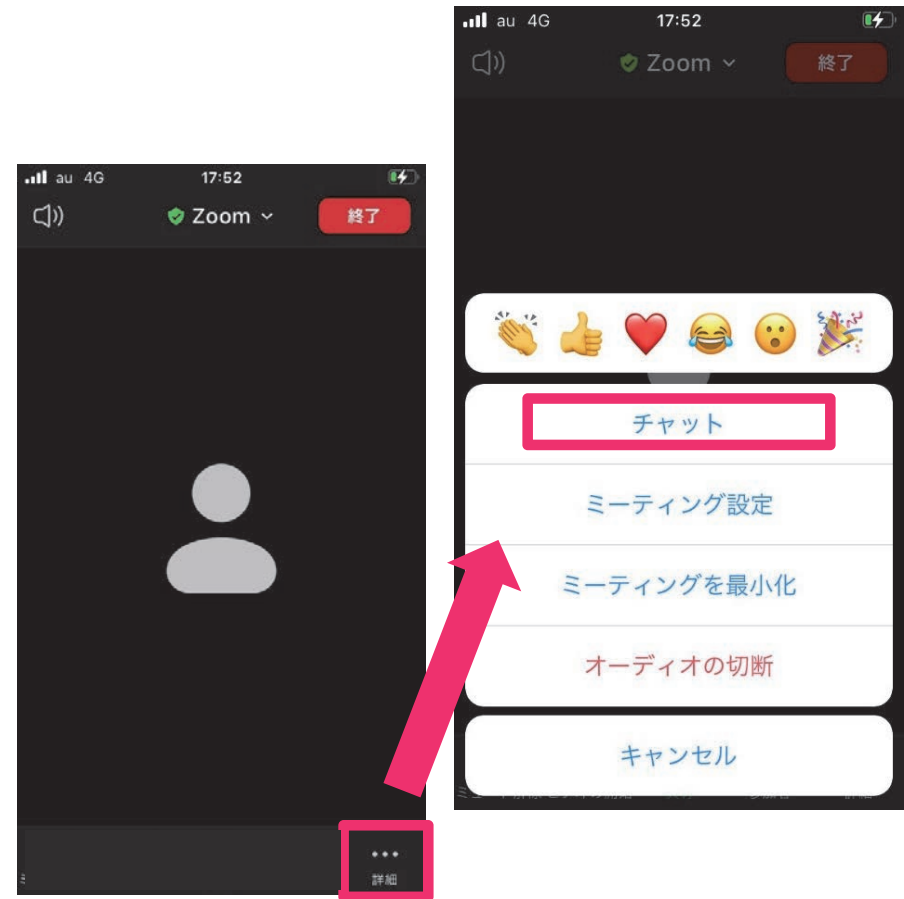
すべてのパネリスト

✓ すべてのパネリストおよび出席者

タブレットの場合



スマートフォンの場合



ご参加いただき誠にありがとうございました
今後ともよろしくお願いいたします

